







六  
点

(例一)

を重がよ るる性  
 すし分う以とこで仕  
 る、かに前考とす事  
 こ協れそ、えで。を  
 と力まの先、る、相す  
 がしし仕生か気手る  
 間で合た事から持のう  
 生きつ。をらでち考え  
 またし進仕す良えで  
 こしかめ事をくを最  
 したとしるを 仕受も  
 。で、か頼 事を入切  
 こ、おでま をすれな  
 の気互、れ する、こ  
 時持い友た る、こと  
 、ちのだとき ことをは  
 仕良意ちき とを合、  
 事く見と、 がわ協  
 。を仕を意ど でせ調  
 す事尊見の き

\*

・いよわ確  
 ・うすに自  
 ・な力伝分  
 ・観をわの  
 ・点みる考  
 ・にるよえ  
 ・基問うや  
 ・づ題に意  
 ・いで適見  
 ・採るにま  
 ・点。書と  
 ・さきめ、  
 ・れ下あ、  
 ・たのら的

・がに何いびもと一  
 分わ示がる、大一  
 のかし最か自切に事  
 考る、も。分だつを  
 えよその切のといす  
 がうの後だと考えう、う  
 的に書に、思を明と  
 確にい、思を明と  
 伝て選う確をの、  
 わいんか書につか中大  
 るるだを最理最  
 よか理最  
 う。由初て最